

優しさ、勇気、夢見る力



平田紀和子

二十歳の時からピアノ教室を始めて、もう35年目。これだけは絶対にやめたくないし、やめないとはいけません。」

今回ご紹介するのは、ピアノ教室の先生、平田紀和子さん。自分の精一杯の演奏で誰かが感動してもらえたら、聴いた人が幸せな気分になってほしい。

「ピアノを通じて、人間性も一緒に育ってくれればいいなと思います。」

教室は週に一度の割合でレッスン。レベルにもよるが、30分〜1時間ほど1対1で生徒と向き合う。

若い頃は、楽譜通りに弾けているかどうかの確認だった。年を重ねていくうちに子どもも可能性が分かってきた。

自分の中で、習い始めは技術的にあんまり出来ないなとランク付けしていた。そんな自分のレベルの低さに気づいた。

「発表会で普段より難しい曲を与えて、仕上がるかなと心配になるが、生徒の可能性を信じているとちゃんと仕上げてくる。子ども達はすごいなと思います。」



ピアノ教室のチラシには「いっしょにワクワクしちゃいましょう」「優しさ、勇気、夢見る力を音楽を通して伝えたい」と書かれている。

「イメージする事がすごく大事で、子どもにも未来に対して夢を持って欲しい。」

平田さんの夢は、みんな幸せになること。

みんな繋がっているから教室に世界地図を貼っている。「世界のコースがどこで起きているのだろう」と生徒と探したりします。みんなが幸せだなと感じてくれる人が、いっぱいいれば、私の幸せにも繋がります。」

三百年前に描かれた絵を美術館に見に行くことがあった。そんな絵を目の前で見られるという出会いもそうだし、ヨーロッパは三百年前にこんな絵を描いているという発見。

そして、バッハが作曲した曲を私たちが弾いている、触れられていることに新たに感動。

「人生は感動です。」

「いい物は残る。人を感動させるものは残っていくんだなと思う。」

チャレンジする気持ち。まずやってみることに、過程が大事。そんなことも子ども達に伝える。

平田さんは5年前に体調を崩した。忙しすぎてあまり食べていなかったことが原因のひとつ。なにも考えられない、見たくない、聴きたくないという時もあった。

「ピアノを弾くことって楽譜を目で見ても、脳で感知して弾くという動作を瞬時にしていたんだなと、出来なくなっていたら、出来なくなると初めていろいろなこと気づきました。」

長寿会でのお手伝いでは、いくつになってもやりたいことをやっている方に出逢え、まだまだ夢が膨らむ。

「何かになりたいなと思ってくれる子ども達が増えるといい。」

「ピアノも大事だけど、色々な経験をしてほしい。お花を見たら綺麗だなと思う

て欲しい。そういう心も育ててほしい。」

平田さんの息子さんが6歳の時に急に歩けなくなりました。原因は今も分からないまま。車いすバスケットを始め、パラリンピック目前まで行った。今も現役で活躍している。

平田さんにとって、息子さんがパラリンピックに出場することも大きな夢だ。

歩けなくなった時にアレも出来ないコレも出来ないという思いに、とらわれてしまった。これから未来があるのにそれを否定している...。

「もう泣かない、悲しむのは終り。出来ることにチャレンジすることで前向きになりました。」

そして今がある。

■平田紀和子
昭和33年11月22日生まれ
小学校の卒業文集にはもうピアノの先生になりたいと書いていた。両親も姉も歌うこと、音楽が好き。

■のはなピアノ教室
住所：小矢部市野端250-22